

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

病害虫防除情報第2号

イチゴ（親株）の病害虫対策についてとりまとめましたのでお知らせします。
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

親株床での徹底防除で、本ほへの病害虫の持ち込みを無くしましょう。

- 1 作物名 イチゴ（親株）
- 2 病害虫名 うどんこ病、アブラムシ類、ハダニ類
- 3 発生状況

表1 5月中旬の巡回調査における、イチゴ親株床での発生状況

	うどんこ病		アブラムシ類		ハダニ類	
	発生面積率	発病葉率	発生面積率	寄生株率	発生面積率	寄生株率
本年	77.7%	25.9%	66.6%	24.0%	66.6%	14.5%
前年	33.4%	1.8%	0.0%	0.0%	83.3%	29.2%
前々年	30.0%	0.9%	10.0%	0.2%	50.0%	2.8%

うどんこ病、アブラムシ類、ハダニ類について、発生面積率、発生程度とも高い状況となっている。

4 防除上の注意

- 1) 各病害虫とも、多発生後の防除は困難となるので、早期発見、早期防除に努める。
(アブラムシ類は夏季の増殖率が1か月で約1万倍と推定され、また、ハダニ類は1雌の産卵数が100卵以上と、急激に個体数増加する害虫である。)
- 2) いずれも葉裏に寄生・繁殖することが多いので、葉裏に薬液が十分かかるように、丁寧な防除に努める。また、発生初期の内に、散布間隔を短くして集中的に防除することが肝要である。
- 3) うどんこ病に罹病した葉や果実、アブラムシ類・ハダニ類が寄生し劣化した葉は適宜摘除し、親株床内に放置せず、ビニル袋などに密封するなどして適切に処理を行う。
- 4) うどんこ病は夏季高温期には病勢が抑えられるので、その時期も防除の適期と言えるが、生き残った菌は目立たず越夏し、定植後の発生源となるため、今の時期に徹底して防除することが望ましい。
- 5) アブラムシ類・ハダニ類はイチゴ以外の植物にも寄生するので、親株床内及び周辺の除草を行う。
- 6) 同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
- 7) その他詳細については、病害虫防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、各支庁・農林振興局（農業改良普及センター）等関係機関に照会する。

《連絡先》病害虫防除・肥料検査センター 米良
TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-7499
ホームページ : <http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki>
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp